

027
540
1

Handwritten vertical text on a central label, likely a library or collection number, including characters such as 中, 本, 附, 七, 三, 二, 一.



029
540
1

愛知女子
第 11780 番
書 圖

九二五

22411
104



使林の書中
はるなるんと東御の宮
たねの西京のこころを
あはれむ
たねの西京のこころを
あはれむ
たねの西京のこころを
あはれむ

春の心もつゝの駒のちよき
 こときつちあふる都の人々
 怪しむ取たか傳怪の老りと地
 中を果てしき牛着扇乃
 志ぬるひへんも古翁由たの徳を
 半然と多きり小石を採る碑
 庵中心ふのこ



五十韻

一字はるるあはれく雲の音

三四坊

善毛ふ心静草近は心

大艸

春の心もつゝの駒のちよき

水

草鞋小指をさす探る

舒子

反古張子馬海人は道つち

六詩

春の心もつゝの駒のちよき

琴河

高妙月行... 每枝乃... 一里... 杵也
林... 山... 谷... 農布
大... 祠二
巴角
秀州
東鼓

菟... 橋治
秋... 文
今... 自
初... 子
无... 皆
山... 河
有... 也

子思如共中^二之^一 懐^レ子^レ 望

睡^レ之^レ 顔^一 へ 烏帽^子 着^ル 者 望

養^六 如^レ や^レ 如^レ 湯^一 籠^を 罰^レ たり 望

二^レ 水^を 近^ク 上^ニ 長^ハ 以^テ 友^ト 橋^ニ 望

國^智 に 心^ヲ 如^ク 然^ル 家^ハ 是^レ 自^ラ 望 浦

幽^柔 と 先^へ 知^レ と 上^ツ 望 為

憶^み 之^を 志^ス 以^テ 重^ク 多^ク 齒^子 多^ク 望 鼓

牛^ト 是^レ 作^ル 本^ヲ 特^ニ 不^レ 也^ノ 名^也 望 文

次^の 首^上 と 十^と 鉛^属 中^ニ 音^ノ 殘^レ 望 坊

一^以 以^テ 是^レ 子^ハ 仁^者 賴^ル 杖^子 望

身^も 智^也 通^ヒ 心^を 下^ニ 結^ス 今^一 望 水

痛^ク 書^ス 了^リ 猫^如 如^ク 多^ク 望 河

之^レ 活^レ 如^ク 餘^所 取^ル 至^ニ 今^一 望 詩

地^取 の 國^一 廟^心 巧^心 以^テ 水^多 望 望

井^二 柳^一 如^ク 佳^州 子^は 以^テ 杉^ノ 幅^也 望

壺^ノ 人^ノ 去^リ 口^ニ 望 望 止 布

例多ハ情不而諸手ノ見入リ有
尾形根ノ者 五月内如寄 角
左邊如被を能ク差留不
力ハ如矢之乃掌ノつり心
木ノしお能ク止残ノ之ノ目
子ノ下ノ如酒ノ香板
節ノ小形ノふかい如船
爰ノ之玉生ノ事ニ情ヲ打リ
水

招息子香如 捲乃小ノ子
野原ノ下ニ捲ノ者生也 詩
彼ノの碑如龍舟ノ似事其乃信 付
表如を浴ク 百里ニ去里 執筆

一座檢香

昔ノ来々ノ心不也 墨道
大ニ者 碑如通シ 墨道
子鳳

金城

麥水

墨書を始りと誰、忘れ霜、東都 文艸

とむ亦も不精や、墨直加賀、艸也

墨直し空世縁の味、時、農布

筆採く世の中や、墨直し、舒子

九重如雲と幾多に墨直六詩、桐二

花の鳥と昔如墨直六詩、琴河

子麩もふと筆持墨直、寂上 吟里

二不餘了矢立如的や、墨直し

花の鳥は石如深きや、墨直、洛 東鼓

筆直を筆や、二海、秀 艸

陽光を拂ふ多墨を、松前、楊公

しるの葉もかへは、墨直、巴角

送拜

數賀連中

春より忘るぬ筆如若花、琴路

墨色も走如、松前、桂葉

春更如、松前、其 雪



子直直に下りりや 草芽芽し如
 存や我之改磨之 筆直し
浪荅 種糸
洛 隆慶

筆跡を尋ねし日猶ふしし山さかみ
 手と筆の相性もよむや筆直し
 取書く筆乃其下筆心也し
 柳も寒枯れりや 寸直し
 存書も其み下りりや筆直し
 筆入書其身の 以ふ石花の陰
大廻
おきし
 柳のや梅の陰も筆直し
羽州新莊
鷺橋
二笠
芥舟
琴工
尾

登此巖一如... 胡山
浮雲多... 東島
松之... 二喬

全
小松連中

暖如山... 松舟
尺... 余...
松舟

あやめ

湖東
八幡山連中

石... 春... 竹... 湖舟
静... 竹... 何伸
... 何伸

別れの意へまをぬき義可那
 空懐もふゆと尺上のかすのみか
 極ふ〜梢と雪と持ぬ〜
 山吹や笑もあらずあはむ時
 ぞ〜ち子室まを〜〜
 針の目物も高嶽彼岸の氷
 吹雪の如く小言のり喜の雪
 思ふ夕暮に家裏の〜二井の鐘
 可呂

追加

多〜すは〜心の余は初さのみ
 加賀
 素園屋
 正〜〜利娘春も遠水に夕や在
 半代坊

大蔵の千果庵をもの御書とせ
大蔵の東在りもの御書とせ
一書表しめと書寫の碑や
此那乃能佐なりとて
今も此漢掃を競ふ今

長中寺の物と書寫のもの
御書君之御書なりと競
中のみまを如し御小
從書の書と書寫の左
祖の書と書寫の書

一
以
少
如

壺

四



庚
時
義
持
主

甲
申
二
月
廿
日
張
氏
印

平

加藤 輝 藏

加藤 八 藏